1.　評価結果概要表

評価確定日　平成20年　6月　18日

【評価実施概要】

事業所番号	2270600493
法人名	有限会社　富南
事業所名	グループホーム　富南の郷里
所在地 （電話番号）	静岡県三島市安久　660－10 055－982－1019

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町　4番1号
訪問調査日	平成20年3月24日

【情報提供票より】（平成20年02月01日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17　年　03　月　01　日		
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	23　人	常勤　16人，非常勤　7人，常勤換算　19.5　人	

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨　造り	
	2　階建ての　1　階　～　2　階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000　円		その他の経費（月額）	12,600　円
敷　金	有（　120,000　円）			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250　円	昼食	400　円
	夕食	300　円	おやつ	150　円
	または1日当たり　1，100　円			

（4）利用者の概要（平成20年02月01日現在）

利用者人数	18　名	男性	3　名	女性	15　名
要介護1	2　名	要介護2	5　名		
要介護3	8　名	要介護4	3　名		
要介護5	0　名	要支援2	0　名		
年齢	平均　85.6　歳	最低	74　歳	最高	95　歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	斎藤医院　・　うめなクリニック　・　杉田整形

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの由来は、代表の先祖の名前「富南（ふなん）」に因んだものであり、白隠禅師との親交や、地誌編纂では伊豆の伊能忠敬との伝承もあり、その先祖の「孝」の思想を地域福祉に実現しようとしたものである。富士を仰ぎ、大場川の堤を擁し、隣接する代表者の広い敷地の古木・果樹・草木を愛でる恵まれた環境にある。地域密着型に相応しい理念を掲げ、代表・管理者・職員が一丸となって、その実現に取り組んでいる。介護事業の拡大や職員の異動で一時、利用者や家族に心配をかけたが、今は落ち着いている。地域からの信頼と代表の強いリーダーシップの下に、更なる充実が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 外部評価の意義をよく理解し、昨年の指摘事項については、全て改善されていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 今回は多忙な時期と重なり、責任者だけの対応になっていた。落ち着いた現在、今後は職員全員で取り組み、更なる改善への取り組みを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 運営推進会議のメンバーは20名近く、幅広い地域・行政・家族・知見者・ボランティア・ホームの代表者等で構成され、2ヶ月に1回着実に開催されている。毎回時間超過してしまう位活発な意見が交換され、ホームのサービス向上に役立てている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 関係者によるケア会議を基に、利用者一人ひとりの状況や写真等を、思いを込めた言葉を添えて家族に報告している。そのお便りにてもご意見欄があり、苦情・相談窓口は重要事項説明書等に明記されており、ご意見箱もある。利用料は原則現金納入となっており、普段の来訪時と合わせて、ご意見・要望を気楽に言いやすい体制に有り、それらをホームの運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 開設当初から地域に密着したホームとして運営されている。運営推進会議等を通じて誘われた地域行事へも、利用者のレベルに応じて参加しており、地元消防団との連携訓練にも素晴らしいものがある。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表が元々地元の名士であり、先祖の「孝」の考えを地域に密着した「福祉」に置き換え、地域貢献を考えて設立されたホームであり、地域密着型に相応しい理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、代表・職員とともに「公平で平等な介護、ゆったりとゆっくりと第三の人生を供（従者の気持ち）に歩む」理念に基づき、その実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から地域に密着したホームとして運営され、運営推進会議等を通じて地域行事への誘いも多く、利用者のレベルに応じて参加している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	オーナー・管理者・職員共に評価の意義をよく理解しており、昨年の指摘項目については、全て改善されていた。しかし、今回の自己評価については、介護事業の拡大・職員の異動・管理者の交代等もあり、責任者のみの対応になっており、職員の参加は見られなかった。	○	自己評価票の作成に当たり、全職員が参画することにより、更に自己・外部評価の意義が理解され、改善促進に役立つものと思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回着実に開催されている。メンバーも20名近く、幅広い地域・行政・家族・知見者・ボランティア・ホームの代表者等で構成され、毎回時間超過してしまう位活発な意見が交換され、ホームのサービス向上に役立てている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設以来家族会にも市の相談員が参加し、利用者・家族・ホーム関係者との話し合いも行われ、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、職員・計画作成担当者・看護師・栄養士等の関係者によるケア会議を基に、担当職員から、利用者一人ひとりの状況や写真等を、思いを込めた言葉を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は重要事項説明書等に明記されており、ご意見箱や毎月のお便りにもご意見欄がある。利用料は原則現金納入となっており、普段の来訪時と合わせて、ご意見・要望を気楽に言いやすい体制に有り、それらをホームの運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は落ち着いているが、介護事業の拡大・職員の異動等があり、一部の利用者や家族に心配をかけた時期があった。	○	ローテーションについては極力計画的に行い、事前・事後の説明を充分に行うよう配慮されたい。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理念・モラル・介護スキル等については、その都度外部・内部の研修が適切に行われているが、年間の研修計画は見られなかった。	○	職員のレベルに応じた年間研修計画を策定されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画はされていたが、実施に至っていない。	○	ホームが落ち着いてきた今、地域からの信頼と強いリーダーシップの下に、同業者と共に地域福祉の向上に取り組んで頂きたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には必ず家族とともにホームの見学をし、昼食を共に取っていただいている。家族や本人から以前の暮らしぶりを聞きだして、それに近づけるよう努めている。ホームの環境を利用して外へ出てコミュニケーションを図り、ホームの雰囲気に馴染んでいただくよう取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩として、興味深い話や先人の知恵を教えてくれる。また、職員の仕事に対してねぎらいの言葉をかけたり手伝ってくれたりして、職員に遣り甲斐を持たせてくれる。利用者同士の連携も良く、助け合う場面も見られた。職員は、利用者の供（従者）の気持ちを育んでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用希望時のアセスメントや利用後の暮らしの中から思いを引き出しており、介護経過には利用者や家族が話したこと、どのように対応したかを記録してあり、意向に沿った支援が出きるよう取り組んでいる。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月カンファレンス会議を行なっているが、事前シートを作成し職員それぞれの気づきを書き込んでおき、それを基にして介護計画を作成している。会議の実施時間を調整するなど、計画作りに家族が参加しやすくするための配慮もしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護経過、申し送りノート、事前シート等に利用者の変化を多方面から細やかに捉えて記録しており、本人・家族の意見も取り入れて、現状に相応しい変化時及び3ヶ月ごとの介護計画の見直しが実施されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が行きたいところへ一緒に付き添って出掛けたり、個人でマッサージの施術を受けることへの支援をしている。また、広いホーム及び隣接する法人代表宅の敷地を利用し、四季の樹木・果実・バーベキューなどを楽しんでいる。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用以前からのかかりつけ医にかかっている利用者は2名いる。協力医には家族がそれぞれ契約して、毎月2回の往診をお願いしている。正月に緊急を要する事態が起きた際に、診療拒否を経験している。	○	緊急時に適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医・協力病院との連携再構築が望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と重度化についての話し合いは行なわれており、職員間でも方針の共有について話し合っている。家族から看取りの要望はあるが、現状での受け入れには不安がある。	○	ホームで対応出きることと出来ないことを見極めた上で、ホームとしての指針やマニュアルを作成し、職員間での共有化が求められる。また、終末期の介護技術研修や職員へのメンタルケア等についても取組みが求められる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を守り、自尊心を傷つけることのないように、利用者それぞれの状況に留意しつつ支援してゆくことを、カンファレンス会議で話し合っている。ホームでは食と同様に排便も重要視していることから、排便コントロールも利用者に配慮した支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を生活において強制することはなく、起床・食事も自由にしていただいている。食事の際になかなか箸が進まない利用者に、職員は何度も優しく声掛けをしていた。詩集を片時も離さず読んでいる利用者、何度となく歌っている利用者、唱歌を共に歌う男性利用者も見られ、のんびりした時間が感じられたが、忙しいときには「あとで」となる現実もあると伺った。	○	職員の役割やマニュアルとの兼ね合いを、全職員が同一のレベルで共有することにより、業務の流れを改善して行くための会議を定期的に開催していただくことをお願いしたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや配膳、片付けなど、利用者も参加しながら食事に関わっている。利用者の好みを考慮した献立で、職員も一緒に同じものを頂いている。時には庭でバーベキューを楽しんだり、系列事業所調理師の応援による押し寿司や、変り種のお楽しみ料理が披露されることもある。外に出たときは、ファミリーレストランでお茶を楽しむこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められている。炭酸泉を導入して、週1回は楽しんでいただいている。入浴できない日には炭酸泉で足浴を楽しんでおり、職員は軍手を嵌めた手で利用者の足をマッサージして喜んでいただいている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や炊事の手伝い等出来る利用者は参加している。絵を描いたり、編み物をしたり、雑巾を縫ったり、ピアノを弾いたりそれぞれの得意なことに関われるよう支援している。干し柿作りやみかん狩り、ゴミ袋やメモ用紙作り、位牌に水を備えたりと役割を果たす張り合いを持てるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは広い敷地を有し、利用者は周辺の散策や近くの神社や公園までの散歩を日常的に楽しんでいる。買い物の同行や折紙展の見学、系列事業所の大型車を利用しての花見や遠足にも出掛けている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。ホーム開設当初より、拘束があってはならないことを当然と考え、見守りに徹している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えて水や食糧を備蓄し、自家発電機を装備している。市消防署に加え、地元消防団の協力も得て防災訓練を行なった。外階段からの避難誘導、消火器の取り扱い、発電機の点検等、様々な状況を想定した訓練をしている。代表初めホーム周辺に居住する職員が多く、台風時の緊急招集には深夜にもかかわらず、20分以内に10名の職員が駆けつけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム立ち上げ当初より職員に栄養士を擁し、利用者個々の好みや状態をよく理解した上で、野菜を中心としたバランスの良い食事を提供している。食へのこだわりは強く、カロリー、塩分までも計算された献立表を基に食事作りをしている。水分摂取量の記録もされている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節柄、玄関を入ると正面に七段のお雛様が飾られ、華やかな空気を醸していた。毎日全ての手すりまで拭き上げる清掃（清潔は開所時からの伝統）によりホーム内はどこも清潔で、大きな窓からの採光は心地良い。北側の通用口の窓からは天気がよければ富士山を臨むことが出き、利用者もその眺めを楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は清潔なリネンのベッドを中心に、椅子や箪笥・仏壇等が持ち込まれ、家族の写真やお気に入りのカレンダーを壁に貼って、個性的な部屋作りがされていた。利用者手編みのマットを敷いた椅子を勧められ、しばし楽しいお話をさせていただいた。		